

22 管内の耕畜連携による持続可能な循環型農業の取組（J A ゆうき青森）

○ J A ゆうき青森は、管内の家畜排せつ物や学校給食の食物残渣などを活用して J A 独自に堆肥を製造、提供し、土壌分析等に基づく徹底した土づくりで化学肥料と農薬を抑えた環境負荷低減の取組を推進。

■ 国内資源の種類 ■ 肥料の種類・肥料名称

- ・牛ふん
- ・豚ふん
- ・鶏ふん
- ・野菜残渣 等

- ・種類
特殊肥料（堆肥）
- ・肥料名
ともぞう
ゆうきの里土作くん



■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

- ・平成22年に旧 J A とうほく天間と酪農農協が合併したのを契機に、土づくりを基本理念とした「有機の里づくり」構想を掲げ、地域内資源を活用した循環型農業を推進。
- ・土壌分析、堆肥活用、緑肥の導入など、徹底した土づくりで化学肥料と農薬を低減し、低コスト生産につなげる環境負荷低減の取組を地域ぐるみで実践している。

取組の内容

- ・管内の家畜排せつ物や学校給食の食物残渣などを活用し、東北町有機供給センターで主成分の異なる土壌改良向け、肥料向けの2種類の堆肥を製造し、管内の農家へ提供。また、町もタイアップして堆肥購入費の3分の1を補助する健康な土づくり推進事業で地域資源を活用した堆肥の利用を支援。
- ・ J A 独自の認証制度「エコファーマー認証システム」を設定し、「有機の里づくり」構想に基づく徹底した土づくりで生産された農産物を P B C ブランドとして認証。

成果（見込み）

- ・エコファーマー認証システムの取組により、化学肥料の使用量を70%削減。
- ・農作物の均質化や味覚検査のこく濃度（うま味）が上昇。

■ 作物

- ・にんにく
- ・ながいも
- ・葉つきこかぶ等

■ 主成分の含有量（%）・特徴等

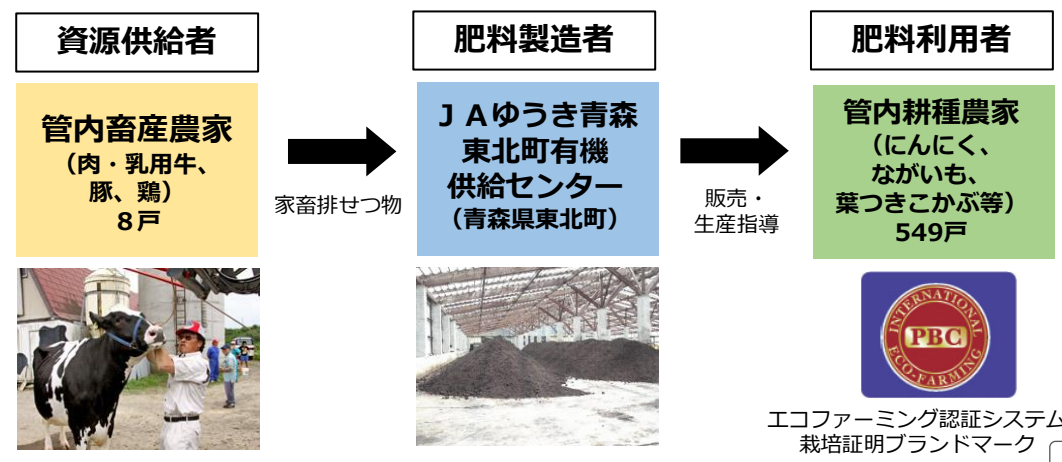
■ともぞう（牛ふん、木くず、鶏ふん、野菜残渣等）

N	P	K	C/N比
0.7%	1.3%	0.9%	17

■ゆうきの里土作くん（牛ふん、豚ふん、鶏ふん等）

N	P	K	C/N比
1.7%	5.6%	2.4%	14

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■ 今後の課題・取組

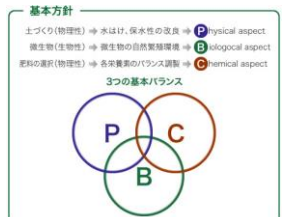
- ・徹底した土づくりの継続と土壌診断データの更なる蓄積による作物生産へのフィードバック
- ・堆肥の需要に応じた安定供給体制の確立



製造した堆肥



「有機の里づくり」構想



「有機の里づくり」基本方針